

かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 75 号

平成 5 年 3 月 25 日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課

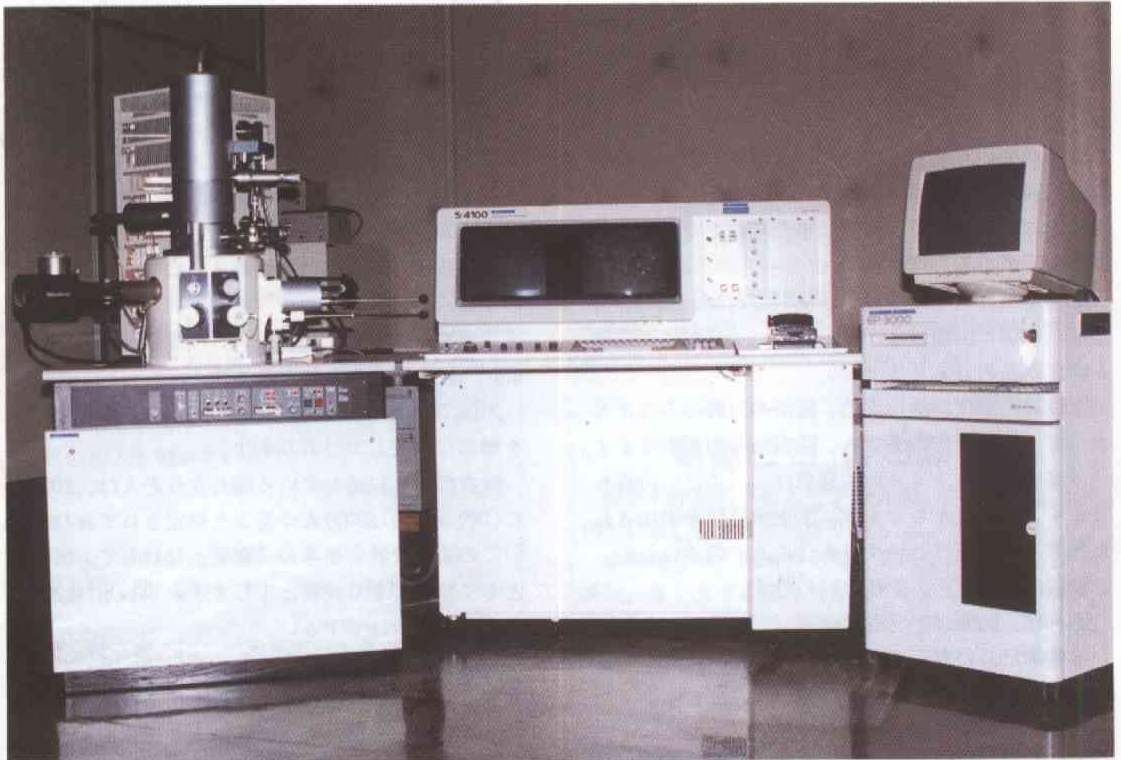


写真 走査電子顕微鏡 (S-4100)

(旭川医科大学医学部附属実験実習機器センター)

第15期生を送るにあたって……………学 長… 2	週休 2 日制に伴うカリキュラム及び
第15期生を送るにあたって……………牧野 勲… 3	窓口業務の変更について……………12
旭川医科大学第15回卒業生名簿……………4	退館管理 (ブックディテクション) システムの導入について ……14
ありがとう、旭川医科大学……………土井 敦… 4	学生団体の設立・継続届について……………14
卒業にあたって……………中村と き子… 5	平成 5 年度前期分授業料免除及び延納・分納について ……14
山とは……………前本 篤男… 5	平成 5 年度日本育英会奨学生の募集について…15
退官にあたって……………天羽 一夫… 6	学生教育研究災害傷害保険の加入について……………15
教授就任にあたって一死者の人権を守る…塩野 寛… 7	20才以上の学生の国民年金への加入について……………15
助教授に昇任して……………千石 一雄… 8	「新歓合宿」のお知らせ……………15
助教授に昇任して……………川堀 眞一… 8	学生食堂・喫茶の価格改定について……………16
講師に昇任して……………立野 裕幸… 9	使用活字の変更について……………16
スキー教室が留学生を交えて実施される……………9	課外活動短信……………16
クリスマスコンサートが病院ロビーで実施される… 9	教官の異動……………16
1 年のあゆみ……………10	窓 外……………田中 剛…16



第15期生を送るにあたって

学長 清水 哲也

皆さん、学士学位記取得、おめでとう。

あえて「卒業」おめでとうと申し上げないことに注目して頂きたいと思います。

一般教育から始まって、基礎医学、そして臨床医学教育に至る長い期間の学習努力が報いられ、今、学士学位記を手にした皆さん、そしてやさしい慈愛のまなざしで見守ってこられたご父兄の皆様のお気持ちに思いを馳せるにつけ、私自身も萬感の想いまさに胸に迫るものがあります。この想いは只単に私一人にとどまらず、教育に当たられた全教官に共通した感慨でもあります。

北海道出身の宇宙飛行士、毛利さんが、思わず叫んだ「地球に国境はなかった」という言葉ほど感銘を覚えたものはありません。

まさに国際化の波は政治、経済の分野のみにとどまらず、学問研究の面でも、顕著なものがあります。

「卒業」というミクロ的発想は、「こと」の終わりをイメージしがちですが、学士学位記を手にした皆さんは、今日という日を「こと」の「はじめ」と位置づけ、とらえてほしいのです。

それは、医師ほど「生涯学習」が強く求められている職業は他にないからです。ことは、ただちに人命にかかわるが故に当然といえば当然でありましょう。

人生とは、生涯「重荷」を背負って歩くが如しという「たとえ」がありますが、「生涯学習」の精神を喪失した医師は病める人達やその家族からの信頼を一瞬にして失うことになります。

また、皆さんの多くは臨床の第一線にあって、診療に携わることになるでありますが、「医の心」とは、「包括医療」という言葉によって表現されるように、単に個々の症状に眼を奪われてしまう、診療技術中心の浅薄な職業人ではなく、病に苦しむ、患者さんの全体像を、その豊かな感性と暖かい手の「ぬくもり」で、病める人達の「こころ」と「からだ」をしっかりと受け止めることであります。

そしてまた看護要員など多岐にわたるコメディカルスタッフからなる「医療チーム」の構成員から全

幅の信頼を寄せられるチームリーダーの資質が求められます。

そのためには、激しく移り変わる社会事象に対しても鋭い洞察力を保持する必要があります。

今、わが国は、出生率の激減と世界一の長寿社会という二つの人口動態によって、超高齢化社会へ、人類史上類例のないスピードで、抜本的な対策なしに突入しつつあります。フランスが115年、スウェーデンが85年を要したこの人口動態の推移を、日本はわずか25年で迎えようとしているのであります。

32年後の2025年には国民の4人に1人が65才以上の年齢人口で占められようとしているのであります。その頃には患者の二人に一人は65歳以上のいわゆるgold ageということになります。

米国では既に geriatric nurse という看護専門職を懸命に育成しつつあります。

現在80万人に達している寝たきり老人は、2025年には約3倍の230万人に及ぶと推定されております。

このような社会事象の「激変」に対して、医療人として即応できる資質と申しますか capability を是非とも身につけて下さい。

「医療」をめぐる社会情勢の変化は、まことに目まぐるしく、医療法の第二次改正によって、医療機関は機能別に再編され、従来のように介護を必要とする、いわゆる「虚弱老人」に対しては、各市町村に在宅ケア看護センターを設置して、積極的に「在宅ケア」を行うシステムの導入が計画されるなど、超高齢化社会を迎えての対応が早くも現実のものになりつつあります。

しかしこうしたなかにあっても、ゆるぎない基本理念は心身相関の観点に立脚した、病める人々へのそこはかかない「思いやり」であることを再度強調して、皆さんへの「はなむけ」の言葉といたします。

第15期生を送るにあたって

第6学年担当 牧野 勲

15期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。115名の15期生全員が揃って卒業の春を迎えたことは本当におめでたく心からお祝い申し上げます。

皆さんは今後、入学当初からの念願であった医師として、社会で活躍することになりますが、最近の医学・医療の分野はこれ迄にない大きな変貌をきたしています。つまり、分子生物学や遺伝子工学など新技術の導入により医学の新分野が拓け、各種医療技術の開発に伴う高度化医療が普及し、その一方、量から質へ問題が問われる時代となり、人口の高齢化とも相まってクオリティオブライフを向上させる治療・予防が重視されています。また死の判定、臓器移植、生殖医学をめぐる医の倫理や新しい価値観が議論され、加えて社会問題となっているエイズの流行もあります。

このような難しい時代に皆さんは医師として活躍する訳ですから、社会が皆さんに寄せている期待は非常に大きいものがあります。しかしどの様に時代が変わっても「医師は日頃から医療レベルの向上に努め、心豊かな人間性を身につけること」が第一だと思います。皆さんが大学で教科書から学んだ知識は医学の極く一部で断片的なものに過ぎません。一人前の医師になるには毎日の実践の中で秒進分歩の医学に遅れぬよう勉強を積み重ね、修得した知識を次には応用する心がけが大切です。そして患者には常に高質な医療を提供するという姿勢を持ちつづけて下さい。この場合、現在の医学情報は皆さんの回りに洪水のごとく満ち溢れ、戸惑うことも少なくないと思います。しかしその中であって情報を選択し職業人として正しい方向を見定める眼力を養うことも大切だと思います。

次いで医療は患者と医師の間に人間同志の信頼感が成立して、はじめて行えるものですから、皆さんは医師であると同時に良識ある社会人であるよう心がけて下さい。医師は社会で責任ある立場にありながら非常識だという批判を時に聞くことがあります。これは医師が謙虚さを欠くために生じる場合がほとんどです。医師が患者に検査や治療につい

て説明することは従来も行なわれて来ましたが（インフォームドコンセント）、今後はその通知義務が一層強化される傾向にあります。したがって医師は常に誠意と謙虚さを持って患者に良く説明し、接することが第一で、それによりお互いの信頼関係が深まります。そのためには時として自分の行動を振り返り、逸脱個所に気がついたならフィードバック機構を作動させ、軌道修正することが大切です。

最近テクノロジーの進歩が人間社会に大きな影響を及ぼす様になり、その結果、生命の尊厳、医の倫理が問われています。今後これらについて皆さんは自分の意見を述べる機会に出会うと思います。この見識は医師としての精神的基盤をなすものですから、平素から思想を培い、智能を磨き、自分なりの判断基準を持合せることが必要だと思います。

次いで医師は健康であることが大切です。医師は自分が健康でなければ病人の健康回復に寄与することは出来ません。したがって不摂生な生活はすべきでなく、自分の健康管理は自分で上手に行うよう工夫して下さい。

皆さんは卒業後、母校で勉強を続ける者、道内で働く者、津軽海峡を越えて研修する者、また場合によっては海外に出る者などその進路は異なることでしょう。しかしどの地に居ても自分は旭川医科大学の卒業生であることを誇りに持ち、自分のめざす理想像に向かって、力一杯頑張っていただきたいと思います。

最後に皆さんは6年間の長い医学生生活を無事終え、ここに卒業することが出来たのは御両親を始め多くの方々の御支援のお陰げであり、直接的に、間接的に皆さんを応援してこられた大勢の方に感謝の念を持っていただきたいと思います。

皆さんの御発展と御健康を心からお祈りしております。

旭川医科大学第15回卒業生名簿

ありがとう、旭川医科大学

第15期卒業生 土井 敦



6年前、とても寒く雪のたくさんあったような気がします。千葉から来た私にとって感動であり、驚きであり、とにかく新鮮なことでした。それが今では

あたりまえのように冬を迎え雪ハネをして、「今年の冬は暖かいね」と平気で会話している。あっという間の6年間だったような気がするが、このようなところに月日の流れがうかがえるようだ。

最も印象に残っている事、と同時にうれしかった事はクラブ活動を6年間続けられたことである。小さい頃、病弱で運動もできなかった私にとって何よりもうれしいことでした。そしてすばらしい先生、先輩、後輩に出会えたこともあり、辛いと思ったことの無い楽しい時間でした。そのクラブはというと、軟式庭球部であり決して強いチームではなく、負けることが多かったような気がする。しかし、学ぶことは多かったと思う。軟庭というスポーツは個人戦であるが団体戦でもあり1人ではできない。いわゆるダブルスと呼ばれるものだけであり、2人が力を

合わせ各々の役割をしっかりと果たし、また助け合わなければ試合にならない。このことは、医師としてがんばっていこう僕らにとって大きなプラスになるはずだと思っている。また、試合だけではなくクラブに関する行事は1年を通してたくさんあるが、先生・先輩方にはその度にお世話になっている。果たして私にもできるのか不安である。きっと先輩方の偉大さに気付くのだろう。残す行事は追いコンのみとなってしまったが、とにかく思いっきりいこうと思う。

卒業して国家試験に受ければ、医師として社会に出ていく。ここまで来るまでにたくさんの人にお世話になっている。両親、親戚、友達、先生を始め、とにかくたくさんの人に、そして旭川医科大学での6年間に。

これらのことは、私にとってすばらしい思い出であり、これからの活力となるだろう。旭川で培ったことを忘れずに、つまずいた時には6年間を思い出してがんばっていこうと思います。お世話になった方々、旭川医科大学に感謝して、どうもありがとうございました。

卒業にあたって



第15期卒業生 中村とき子

卒業式まであと3週間余りとなり、美しい山々を眺めていると、旭川を離れ難い思いにかられてしまいます。私が旭川医科大学を受験したのは、20代も終

ろうとしている時でした。家庭をもつ一人の女性として、この6年間をふり返ってみると、長い6年だったように感じられます。医師となる為の道を歩き始めた事が本当に幸福な選択であったのか、自分はふさわしい人間になれるのだろうか、なりつつあるのだろうかという問いかけを背負い続けた日々であったように思います。

4年生の学年末試験の勉強をしているある晩、「～ということが発見された。」という一文に、突然深い感動で体中が満たされた事がありました。一つの小さな発見に至るまでの、多くの人々の努力と尊い探求心が察せられたのです。自分がその崇高な知の集積に触れることのできる幸福で心が一杯となり、その機会の与えられたことに感謝しました。そして自

分の選択への迷いが消えていったのです。

もう一つの大きな出来事は出産した事でした。子供を産んで、初めて一人の人間の存在の重さを実感できました。一人一人が、その親にとって、肉親にとって、どれ程大切な存在であるか、子供から学びました。これから患者さんに医師として向い合う中で、患者さんそれぞれが、愛する人にとってかけがえのない人であることをいつも忘れずにいたいと思います。

又、水泳部に所属し、多くの先輩や後輩と知り合い、合宿や練習、東医体、北医体に参加できたのはとても楽しい思い出となりました。5年の後半から始めた勉強会では、励まし合い、心から信頼できる最高の友人達を得ることができました。全てが、宝ものです。

旭川医科大学に入学出来たことはやはり素晴らしいことでした。諸先生方、いつもお世話になった図書館の皆様、お腹の大きい時に「気をつけてね」と声をかけて下さった、食堂や売店や、おそうじのおばさんたち、本当にありがとうございました。

最後に、入学させてくれた夫と、全面的にバックアップしてくれた夫の両親、とりわけ義母に深く感謝したいと思います。

山 と は



第15期卒業生 前本 篤男

また春がやってくる。8年前の春、私は山登りを始めた。夏は沢を遡り滝のシャワーを浴びて稜線に出るとナキウサギの声が迎えてくれる。冬は広い雪原

をスキーを履いてウサギの足跡を追ひ静かな山に包まれていく。雨もまた山、自然のリズムは自分ではどうすることも出来ないと感じると、つらいと思った雨がなんてことなくなる。無理のない、無駄のない、ゆったりとした自然の流れの中になると、頭がからっぽになって体の中に眠っていた生きる喜びや、素直に人や物を見る感覚が研ぎ澄まされていく。

最初それを感じたのは、ある夏の岩場であった。難しいルートに入ってしまった。ぶら下がりながら真下で私をザイルで確保している友人の目を見つめ、「落ちる、たのむよ」と何度も呟いた。その友人の1000m程下に広大なカールが広がっていた。ここで死ぬのかと考えていた。頭もボーとし、それも考えられなくなってきた。すると何とかここをのりきろうと、頭ではなく体で感じ始めていた。細い岩の裂け目が目に飛び込んできた。よし、と腕を頭上高く伸ばすと、岩陰となって目には見えない微妙なホールが指先から伝わってくる。無我夢中でそこをのり越えてみると、ゆるい斜面に小さな草々が無数

にのびている。ただ風にゆられて小さな葉を広げている。なんだか笑いがこみあげてきた。

山のさまざまな場面で、必死になって生きている自分に出会う。生きていたいから生きているんだと素直に感じる。別に山登りだけがそれを気付かせてくれる訳ではないが、たまたま私の場合は山だった。

また春がやってきた。1年前の春、大切な友をなくした。かつて彼は山の命を満身に受け心は素直で自由奔放であった。夜露に濡れるのがいやで私がテントに入っていると、彼はシュラフにくるまって満天の星を仰ぎながら眠った。嬉しい時は自分をなくすほど酒を飲んだ。足の向くままハイマツを飛んで歩いてた。ギョウジャニンニクを採るために崖をよじ登り、うまそうに頬張った。

彼にとって山とは自分を解放するひとつの場であったと思うのは、私の勝手な想像であろうか。だが少なくとも、山は死ぬ場所ではなく、人間らしく生きる場所なんだという考えは共通していた。そして山以外でもそうできるという気がしていた。気がしているだけで、まだまだか…。まだ彼のことを考えると葛藤と混沌との中にいる自分に気付く。

あの事故の中で、多くの方々に心配を掛け、さらに残った私達にも助言をいただいた。本当に有難い。まだこれからも山とは何なのか、彼が教えてくれたことは何だったのかを問い続けていきたい。それが彼、守谷真一君の冥福を祈る事だと考えている。



退官にあたって

放射線医学講座教授 天羽 一 夫

昭和48年から一期生の講義が仮校舎で始まり、随分と大変な場所でしたが、創設期の大学なんて大抵こんなものだと思っていましたし、またこの苦勞が人間を強く、逞しくするもので、敗戦後あまり苦勞していない学生には頂度良いと、あまり同情もしませんでした。この一期生から初めて母校の教授が生まれ、また他大学の教授選考をされた方まで出たのですから、創設期の苦勞もあながち無駄ではなかったようです。当時私は徳島大学に居て、時々手紙のやり取りだけで済ませていましたが、この時期に赴任された教授、またその他の方々の御苦勞は後で散々聞かされました。創設期というものは、まあ何処でも似たりよったりで、初めから立派な建物と設備が提供された所などあまり歴史にもないようです。メイヨー・クリニックも田舎の小さな診療所で先行き何の見込みもない所からスタートしたのですから、僅か20年足らずで、これだけの医科大学が出来上がったのは、日本の経済が幸いしたとは言え、旭川医科大学の皆様方の努力と、先に御退職された方々の御苦勞の賜物でもあります。

私が旭川に家族共々赴任したのは昭和51年で、宿舎はありましたが、部屋は仮住居で、同時に発令された二人の助教授は英国、米国に留学してもらいました。私も仕事がなく、この頃から放射線科にも新しい光が見えて来ましたので、もう一度、前に居たスウェーデンに行けました事は世界の趨勢が判っただけでも、その後の旭川での仕事に大変参考になりました。

教育、研究は少ない人数では中々出来ませんでした。北海道の地方病の多包虫症の実験研究が出来た事と教室員の学位を出して頂いた事だけでも良しとしなければいけないと思っています。

昭和52年に放射線外来を開始しましたが、3人ではとてもやって行けないので、徳島大学の教室員に3人来て貰い、附属病院の診療と市立病院の実習に携り、卒業生の入局を待ちましたが、仲々充足は出来ませんでした。本来、放射線科は総合科で、体内の静的、動的な状態を諸々の手段で観察し、診断をつ

け、治療をするところです。昭和50年頃から新しいModality が続々と出て来ました。先ず CT の出現です。それ迄見えなかった脳が何と明瞭になったではありませんか。これが改良され内蔵や骨の構造まで見えるようになりました。超音波もB-モードで胆石、肝癌、膵癌などが判り始め、心臓の弁膜の動きまで見え、カラードップラーが出ますと血流分布や流速、流量まで測定出来て、治療に貢献しました。

RI も SPECT, SET が出てきて心臓や脳の部分的な機能が判り始めました。血管造影もセルジンガー・カテーテルの改良で狭窄血管の拡張や腫瘍塞栓が可能となり、DSA の発達でより細い血管の観察も可能になっています。それ迄化学分析にしに使われなかった核磁気共鳴も、MRIとして従来とは概念の異なった医学画像を提供出来るようになり、MRSは組織の分子の分布を窺うに至りました。また最近では結石の体外からの破碎も可能になり、骨塩の定量も精密に出来るようになり、いずれ、色々な用途が確定する事と思います。また今後設置される CT は spiral と呼ばれるもので、3次元構成が容易になり、冠動脈、気管支、胆管などの立体構造が明瞭になるはずです。放射線科はこのような装置を利用する Interventional Radiology の分野で大変有利な診療科です。これから医師過剰の時代になると聞いています。放射線科はこれからの時代に応じる診療科ですから、卒業生の方々が多数入局され益々発展することを期待しています。

最後に、徳島から慣れない土地に参りました私に親身の御世話を戴きました代々の学長、教授の皆様はじめ医師、技師、看護部、事務局の皆様にも厚く御礼申し上げます。どうも有難う御座いました。



最終講義

教授就任にあたって



死者の人権を守る

法医学講座 塩野 寛

本年3月に定年退官された初代教授 石橋 宏先生の後任として11月1日付けで就任しました。

私は、小樽出身で昭和42年に札幌医大を卒業し、東京医科歯科大学でインターン（途中インターン闘争のため中止）、昭和47年に法医学の大学院を卒業しました。「ヒトの遺伝」をテーマにヒトの染色体、血液型多型、指紋の遺伝を仕事としてきました。大学院卒業後は臨床で遺伝性疾患や奇形の多い小児科を5年間専攻し、大学の小児科外来に遺伝外来、染色体外来を新設しヒト染色体異常で一番多い「ダウン症候群」を中心に患者をみていました。治療方法のない病気をもつ母親とのたたかいは「ムンテラ」にありました。いかに親にその失望の程度を最少限にし、早い立ち直りを与えるかでした。当時私の外来から出てくる親はみな泣いて出てくるものですから「泣かせの塩野」と有名になってしまいました。

患者の母親泣かせもここまでと考え疾病の成因を研究する目的で血液型の多型、指紋などの研究分野の法医学に足をふみこんで現在までどっぷりとつかってしまいました。昭和62年9月からこちらにくるまでの5年間は島根医大におり、この間日本で最初に行なわれた「生体肝移植」の現場にも立ちあいました。島根医大第2外科は、当時医の倫理委員会にかけずに「緊急手術」の名目で病院長の手術許可をもらいました。手術中に病院長は倫理委員会を開き、他の倫理委員の了解をもらおうとしました。「生体肝移植は生体腎移植と同じ程度の危険性しかなく、委員会にかけるとの心配もない……」。私は昭和43年札幌医大で行なわれた心臓移植の時に当時の八十島信之助法医学教授の苦悩を知っていたために、倫理委員会で「生体肝移植と生体腎移植はまったく違う。生体腎はもし失敗しても他に腎のストックがあるし、なくとも人工腎臓で助けることができる。しかし生体肝は肝臓が拒絶反応を示したら他に代るものがない。再び両親のいずれからかもらうのですか……」その他2、3点コメントしたところ倫理委員会の副委員長（病院長が当時委員長）にさせられ、こちらにくるまで体外受精、脳死の基準作りなどで

働かされてきました。

私はこのように臨床と基礎の両方の経験をしてきて、現在の法医学に非常に役立っております。医療事故や交通事故（むちうちかどうか、詐病かどうか）の鑑定、司法解剖、親子鑑定、生体鑑定にも臨床と基礎の知識の応用が必要だからです。

法医学は刑事事件の司法解剖を行います。死体を外部からみて死因を推定する（内科的思考）、そして剖検して死因を明らかにする（外科的、病理的思考）この両面を自分で行う楽しみがあります。その一方において、死者の生前言い残した事を正確に死体より聞いて記録に残さなければならない。例えば2人で乗用車に乗っていて事故をおこし、一人が死亡、一人が助かるとほとんどの例で生存者は「自分は運転していない」と言う。この時に死者の剖検による損傷と生存者の生体検査の損傷の比較により真実を明らかにする。司法解剖は真実を究明する一つ的手段にすぎないのである。医師は患者の命を助けるのがその使命です。しかし法医の医師は誤った鑑定によりヒト一人の命を死刑台という手段でうばいかねない。誤ちのゆるされない仕事であるわけです。

今までの医学教育は患者の命を助けるのが医師の使命ということから「生」を中心とした教育でした。しかし長寿社会をむかえ、ターミナルケア、安楽死、尊厳死、臓器移植のからみで脳死が社会問題となり、「生」とうらはらの「死」についての教育が注目されてきました。この死について深くかかわりのあるのが法医学なのであります。旭川医大においても年間50体の司法解剖、同じく50体の検屍を行って死体検案書を書いています。死学（Thanatology）の教育もこれからの医学教育、一般市民の啓蒙上も大切な問題であります。

私は、教育、研究、剖検を通じて「生と死の医学」の接点を求めて働いていきます。DNAを用いた法医学的研究、さらに臨床遺伝への応用をめざして教室作りを行っていきたいと思います。

「着眼大局、着手小局」が今の心境です。

助教授に昇任して

■ 産婦人科学講座 ■ 千石 一雄



私は一期生として本学で学生生活を送り、昭和54年卒業後、産婦人科学教室に入局し、現本学学長であります清水哲也先生のご指導を受けました。偶然が重なり、そのまま大学院に進学

しましたが、当時は医局員数も少なく診療、研究に多忙中、諸先輩より辛抱強く、時には厳しくご指導をいただきました。知識欲ばかり旺盛で、がむしゃらに過ごしてきたように感じますが、その頃の生活が臨床医、研究者としての私の基盤になっているように思われます。

大学院卒業後、米国ミシガン州立大学の Dukelow 教授の下で、体外受精、初期胚の基礎的研究に従事しました。大学院の研究テーマが「排卵機構の臨床的研究」であったこともあり、この頃より、わずか100 μ mの卵子と一匹の精子が結合し個体に発育する生命の神秘に驚異を感ずるとともに魅せられていっ

たように思えます。その精緻なメカニズムを少しでも理解したいという夢を抱きつつ、帰国後、ヒト体外受精の確立を目指してきました。体外受精児の誕生を願いつつ、暗く、小さな培養室にこもった日が思い出されます。同じ夢を抱く仲間も徐々に増え、臨床も研究も、どうせやるのなら国際レベルの activity を、を合い言葉に頑張ってきた成果が少しずつ実りつつあるように感じます。

この度、石川陸男教授の御高配により助教授に就任致しましたが、医師としてはもとより個人としても未だ未熟な私にとりまして、その任の重さを考えますと不安がつのるばかりです。最近では開き直り気味に今まで同様、教室の仲間と共に学び仕事をしていくことが少しでも activity の高い教室作りにつながり私の重責の一部を果たすことになるのではないかと自分に言い聞かせております。

産婦人科学は、Oncology, reproduction, perinatal medicine など巾広い領域を包含し、婦人の一生に携わる診療科であります、同じ目標を目指し一諸に学ぶ同志あふれる仲間を歓迎します。

助教授に昇任して

■ 耳鼻咽喉科学講座 ■ 川堀 眞一



平成4年7月に白戸助教授が退職したため、同年10月助教授になりました。略歴と感じている所を述べたいと思います。

私は、昭和47年和歌山県立医科大学を卒業し、耳鼻咽喉科に入りました。なお、現在の当大学の耳鼻咽喉科の海野教授が助教授で在籍しておりました。昭和54年に縁があり、和歌山より旭川に移りました。学生の講義で変な関西弁が混じるのはこのためです。北海道に移る際、親には5年単位で故郷の紀伊半島の最南端に帰ることを考えますと話をしたのですが、教室の体制、恵まれた旭川医大の研究施設のおかげで、和歌山医大の7年半の約倍になる13年半を旭川医大で勤務しています。この間、カナダのオンタリオ州にある McMaster 大学でアレルギーおよびそれに関連する細胞について勉強する機会も与えられました。

大学の医師、特に教職員は診療、研究、教育が仕

事であると聞いています。診療に関して、最近では informed consent, quality of life なる言葉をよく耳にしますが、今に始まったものではなく、患者を診察したら患者にわかるように説明することだと考えています。一般の方が今後も医学知識を増していくことより、さらに大切になると思われます。

私を始め、特に医者になって行く学生さん達は知識、技量不足は謙虚な気持ちで勉強していくことが大切だと考えております。研究、教育も診療と表裏一体となっておりますが、上記しましたように当大学には研究がしやすい施設である機器センターがあり、私も電子顕微鏡を中心に利用させて頂いております。今後も実験を続けたいと思っています。実験について他の講座の先生方に相談に行くこともあるかと思いますがよろしく願います。

最後に、助教授になった翌日には給食委員、数日後にはたくさんの委員を命ずる辞令が届きました。現在、委員会が開かれると参加し、状況の把握に努めています。今後とも、よろしく願います。

講師に昇任して

■ 生物学教室 ■

立野 裕幸



「研究と教育は車の両輪であって、大学の教官はこの両方に熱心でなければならない」。初代教授の美甘和哉先生の方針が当教室の伝統となつて、上口勇次郎教授に受け継がれております。

今回、講師に任ぜられたことで、研究のみならず教育の一端も担う立場になり、心機一転、一層努力する所存でございます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私は昭和55年弘前大学理学部生物学科を卒業後、本学の生物学教室へ研究生として参りました。当時から教室の研究テーマは一貫しており、美甘先生の指導の下に、「哺乳類卵子に対する放射線の影響研究」や「ヒトにおける染色体異常の生成機序に関するモデル研究」が昼夜問わず活発に行われていました。研究の最先端の場における厳しさをその時はじめて実感しました。

昭和58年10月には、それまで教務職員であった舟木先生（現鳥取大学医学部講師）の後を引き継ぎました。その頃から始めた「幼若卵子に対するX線の影響研究」で広島大学から学位をいただきました。また、ゴールデンハムスター卵との異種間体外受精法を応用してウシやヒツジの精子染色体分析法も確立できました。この研究がきっかけとなり、ミネソタ大学獣生物教室から染色体分析の技術指導に招かれ、1ヵ月半ほど行ってきました。現在は、これまで技術的に難しいとされていた未受精卵の凍結保存にも取り組み、成果も上がってきています。

ところで、最近の遺伝子工学や発生工学的手法の導入により生命科学の研究も新しい展開を見せています。生物学の教科書として使っている Villee の「Biology」にはすでに遺伝子診断や AIDS、トランスジェニックマウス等、最先端の研究内容が紹介されており、医学部における生物学の講義には、今後このような医学に関連した内容をできるだけ取り入れていく必要があると考えています。それが医学を学ぶべくスタート台に立った学生にとって勉強上の良い刺激になるものと確信しております。

今はスタッドレス時代ですが、気持ちは常にスパイクの状態にして研究・教育という両輪で走り続けたいと思っております。

学内ニュース

スキー教室が留学生を交えて実施される

今年度も12月21日(月)・22日(火)の両日、恒例のスキー教室が、外国人留学生5名を含む25名の学生の参加を得て、北大雪スキー場で実施されました。

初日は、午後から初心・初級・中級・上級の4班に分かれ講習、夜には丸瀬布温泉に移動し講師及び外国人留学生を囲んで懇親会が開かれました。

2日目は午後3時にスキー場を発つまで講習が行われ、全員名残惜しくもスキー場を後にしました。

(学生課)



クリスマスコンサートが病院ロビーで実施される

室内合奏団と合唱部によるクリスマスコンサートが12月22日(火)・23日(水)それぞれ病院ロビーで行われました。

このコンサートは日頃の練習成果を発表するとともに「入院生活を送っている患者さんの励みになれば」とこの時期毎年企画されているもので、ロビーには入院患者、看護婦、医師など約100名が詰めかけ、コンサートを楽しみました。(学生課)



平成4年度

1年のあゆみ

4月

- 10日 平成4年度入学式 (於 体育館)
〔新入生100名(うち女子学生24名)〕
- 20日 新入生研修 第1回目
- 21日 (於 第2～4セミナー室、和室)

5月

- 12日 医師国家試験合格者発表
(本学合格者 116名、合格率90.6%)

6月

- 5日 第18回医大祭
- 7日 テーマ：『一刻千金』
- 30日 学位記授与式 (於 第2会議室)
(学位記被授与者 2名)



第18回医大祭

7月

- 11日 第39回北海道地区大学体育大会
- 13日 (本学が当番校として実施)
〔本学参加種目〕陸上競技(男女)、準硬式野球、バスケットボール(男女)、バレーボール(男女)、サッカー、卓球(男女)、バドミントン(男女)、柔道、剣道(男)、弓道(男女)、ソフトテニス(男女)、ハンドボール
成績：男子総合8位、女子総合9位
- 7月 第35回東日本医科学学生総合体育大会夏季大会
- 8月 (主管校 昭和大学医学部)
〔本学参加種目〕陸上競技(男女)、準硬式野球、テニス(男女)、ソフトテニス(男女)、卓球(男女)、バレーボール(男女)、バド

- ミントン(男女)、サッカー、バスケットボール(男女)、柔道、剣道、弓道、空手、水泳(男女)、ゴルフ(男女)
成績：バスケットボール(女)優勝
ゴルフ(男)優勝
総合6位



地区体

8月

- 8月 第35回東日本医科学学生総合体育大会冬季大会
- 3月 (主管校 福島県立医科大学)
〔本学参加種目〕ラグビー、スキー、アイスホッケー
- 6日 平成4年度納骨式(於 本学納骨堂)

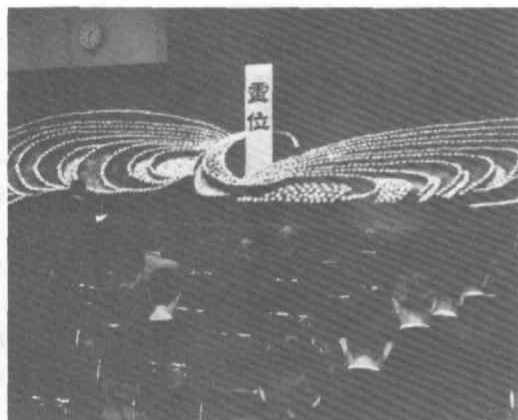
9月

- 9日 体育大会(主催 学生)
〔競技種目〕サッカー、バレーボール、ソフトボール、綱引き、リレー、駅伝
- 16日 平成4年度解剖体慰霊式並びに文部大臣感謝状伝達式(於 体育館・第4セミナー室)



体育大会

30日 学位記授与式 (於 第2会議室)
(学位記被授与者 2名)



解剖体慰靈式

10 月

5日 平成4年度公開講座
29日 「脳とからだと心」
26日 新入生研修 第2回目
30日 (於 第3～4セミナー室)



新入生研修

11 月

5日 本学記念日

12 月

21日 スキー教室 (於 北大雪スキー場)
22日 講師4名 厚生補導委員会委員、
参加学生25名
25日 学位記授与式 (於 第2会議室)
(学位記被授与者 3名)



スキー教室

1 月

16日 平成5年度大学入学者選抜大学入試センター
17日 試験 (本学会場 898名)

2 月

18日 天羽教授最終講義
18日 平成5年度大学院入学者選抜試験
25日 平成5年度第2次試験 (前期日程)

3 月

4日 平成5年度大学院入学者選抜試験合格者発表
6日 平成5年度第2次試験 (前期日程) 合格者発表
10日 天羽教授歡送式
12日 平成5年度第2次試験 (後期日程)
20日 平成5年度第2次試験 (後期日程) 合格者発表
25日 平成4年度学士学位記授与式 (於 体育館)
(学士学位記被授与者 115名)
博士学位記授与式 (於 第2会議室)
(博士学位記被授与者 22名)



天羽教授歡送式

週休2日制に伴う

カリキュラム及び窓口業務の変更について

平成5年4月より完全週休2日制が実施されます。それに伴い新カリキュラムが実施され、全学年、土曜日は休みとなります。

また、学生課窓口業務日、及び売店、食堂などの営業時間も変わります。

概略は以下のとおりですが、詳細は4月に発行される「学生生活のしおり」を参考にしてください。新カリキュラムについて

○主な変更

従来的一般教育科目及び専門教育科目の区分を廃止し、基礎教育系、基礎医学系及び臨床医学系に分類した。

〔基礎教育系〕

- ① 基礎教育系の区分を「人文・社会」「自然」「体育」「言語文化」「総合科学」に細分した。
- ② 1学年の「言語」、2学年の「外国文学講読」「古典講読」を廃止、また、「ドイツ語Ⅱ」を4単位から2単位に削減し、これらを統合して「語学講読コース」として英語、ドイツ語、ラテン語、日本語の4コースを設け1科目2単位の選択必修とした。
- ③ 「物理学Ⅱ」「化学Ⅱ」「生物学Ⅱ」をそれぞれ4単位から3単位に削減し、新たに「自然科学特別実験」2単位を設け、物理学、化学、生物学の3つの実験コースに分かれる、1科目2単位の選択必修とした。
- ④ 「体育講義」「体育実技」を廃止し、新たに、「体育実技(体育理論を含む。)」2単位を設けた。

〔基礎医学系〕

- ① 4学年の「医科学特論」を「医科学演習」とし、1基礎講座に1週間配属されて演習を行う。

〔臨床医学系〕

- ① 5学年の「臨床実習序論」の内容を一部変更した。
- ② 5～6学年の「臨床講義」と「主要疾患総合講義」を統合して「主要疾患総合講義及び臨床講義」として、週2コマ開講する。
- ③ 新カリキュラム実施に伴い、平成5年度に限り、

第4学年及び第5学年それぞれで「臨床検査医学」を開講する。(以後、4学年で開講)

- ④ 「関連教育病院実習」を臨床実習から独立した科目とした。
- ⑤ 6学年の夏休み開始1週目を「自由選択実習期間」として、基礎医学または臨床医学講座において、自由に研修できる期間を新たに設けた。

学生課窓口業務について

学生課の窓口業務は月曜日から金曜日までとなります。

図書館の開館について

図書館の開館は平成5年度は従来どおり月曜日から土曜日まで開館します。

保健管理センターについて

従来どおり月曜日から金曜日まで。

週末におけるサークル活動中の負傷は、附属病院で手当てを受けてください。

福利厚生施設の営業について

食堂・喫茶・売店・書籍・理髪は月曜日から金曜日まで営業。

体育施設・セミナー室の使用について

週休2日制に伴い課外活動の充実を図るために体育施設・セミナー室等の使用期間及び使用時間を下記のとおり変更しました。

体育施設

使用できる期間 1月5日から12月27日まで

使用できる時間 午前6時から午後9時まで

合宿研修施設

使用できる期間 1月5日から12月27日まで

セミナー室

使用できる日 月曜日から金曜日まで

使用できる時間 午前9時から午後9時まで

学生室

使用できる日 月曜日から金曜日まで

使用できる時間 午前8時30分から午後9時まで

(学生課・図書課)

平成5年度科目展開図

() は単位数、○○Hは各科目の合計時間数

学年	1				2				3				4				5				6			
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
17																								
16																								
英	語 I (4)	語 I (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)	英	語 II (4)
独	論理学(2)	比較文理解(2)	総合講義(2)	学(4)	哲学II(2)	歴史II(2)	社会学II(2)	物理学II(3)	生物学II(3)	突発心理学(2)	化学II(3)	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学
哲学I(2)	歴史I(2)	文学II(2)	心理学(2)	社会学(2)	生物学II(3)	突発心理学(2)	化学II(3)	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学
法	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)
経済学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)
社会学I(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)	社会学(2)
数	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)
物	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)
化	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)
生	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)	学(4)
医学概論I(2)	統計学	解剖学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学	生理学
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習	補及演習

自由選択実習

お し ら せ

退館管理(ブックディテクション)システムの導入について

図書館では、カバン・コート等の持ち込みが自由で入りやすい図書館に改善するため、退館管理システムを導入し平成5年4月から稼働します。

このシステムの導入により、新たにご留意頂くこともあります。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

1. 退館管理システムとは

退館時に図書館蔵書の貸出手続きを忘れた場合など、警告表示などで利用者及び図書館員に通知するシステムです。

2. ロッカーについて

カバン等の持ち込みが自由になることにより、ロッカーが少なく全て使用中とか、大きなカバンが入らないなどのご指摘について改善することができます。ただし、現在あるロッカーは身軽さをご希望の方のために残しますので、引き続き利用できます。

3. 留意事項

- ・出入口が入る通路と出る通路の別々となります。
- ・カバン等は、机の下に置いてください。
- ・席を離れる場合など貴重品等の管理は各自で。
- ・既に貸出済みの図書でも出口を通過するときには、必ず係員に提示してください。

(附属図書館)



学生団体の設立・継続届について

平成5年度において、新しく設立しようとする学生団体、もしくは活動を継続しようとする団体は、4月30日(金)までに設立届または継続届を学生係に提出してください。

なお、継続届の提出がない学生団体は、解散したものと処理しますので注意してください。

(学生課)

平成5年度 前期分授業料免除及び延納・分納について

平成5年度前期分授業料免除及び延納・分納を希望する者で、下記基準のいずれかに該当すると思われる者は、教務部学生課厚生係で必要書類を受け取り下記の期間内に申請すること。

なお、申請者については、選考の間授業料の納入を猶予します。

また、不明な点は、同係に問い合わせ願います。

記

1. 授業料免除基準

- (1) 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀であると認められる場合
なお、平成5年度において原級に留置されている者又は、最短修業年限を越えて在学している者は、免除の対象としない(休学の理由による者を除く。)
- (2) 授業料納期前6月以内(新入生については、入学前1年以内)において学生の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) (2)に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

2. 申請書類

- (1) 授業料免除申請書
- (2) 学資負担者が死亡した場合は死亡診断書
- (3) 災害を受けた場合は罹災証明書(市区町村、警察、消防署が発行したもの。)
- (4) 市区町村発行の所得証明書(給与所得者については、平成4年分の源泉徴収票を、給与所得者以外については、平成4年分の確定申告書(一面・二面)等の写し(生計を一にする家族全員分)を、また、学資負担者が死亡した場合は、死亡前の所得証明書を併せて添付すること。)
- (5) 失業者は、民生委員又は職業安定所の証明書
- (6) 生命保険金の支払いを受けた場合は、当該保険会社の保険金支払証明書
- (7) 家族の中に就学者がいる場合は、その者(申請者本人及び義務教育の就学者は除く。)の在学証明書
- (8) 自動車保有に関する申立書
- (9) その他家庭事情により参考となる証明書等

3. 申請期間

- (1) 在学生……………平成5年2月15日(月)
～3月31日(水)
- (2) 平成5年度入学生…平成5年4月1日(木)
～4月22日(木)

平成5年度 日本育英会奨学生の募集について

日本育英会は、優秀な学生で経済的理由のため就学困難な者に学資を貸与しております。

本学では、日本育英会からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本育英会へ推薦します。

ただし、日本育英会では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

奨学生の募集要項を、4月上旬に公用掲示板に掲示しますので、貸与を希望する者は、提出期限に遅れないよう所定の書類を教務部学生課厚生係に提出してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、同係に相談してください。

学生教育研究災害傷害保険の加入について

本学は、学生の正課中・課外活動中における災害事故補償のために『学生教育研究災害傷害保険』の賛助会員大学となり下記のとおり加入受付事務等を行っています。

本保険は、学生の互助共済を基本として運営されており、学生生活中の万一の場合に備え、できるだけ全員の加入を勧めています。

まだ加入していない学生は、加入するようにしてください。

記

1. 受付期間 自 平成5年4月1日(木)
至 平成5年4月30日(金)
2. 受付窓口 教務部学生課厚生係
3. 保険料

6年間	3,400円
5年間	2,950円
4年間	2,450円
3年間	1,900円
2年間	1,300円
1年間	750円
4. 支払い保険金の種類と金額

区分 種類	正課中	学校施設内の休憩中 学校施設内外の課外活動中(学校施設外の課外活動については、大学に届出た活動に限る。)
	学校行事中	
死亡保険金	1,200万円	600万円
後遺障害保険金	54万円～1,800万円	27万円～900万円
医療保険金	実治療日数4日以上が対象 6千円～30万円	実治療日数14日以上が対象 3万円～30万円
入院加算金	1日につき4,000円	1日につき4,000円

20才以上の学生の国民年金への加入について

国民年金法の改正に伴い、大学に在学する学生で20才以上の者は、平成3年4月1日から国民年金の被保険者(当然加入)として適用を受けることになりました。

従来学生については、20才以後在学中に障害者となった場合、国民年金に加入していない限り障害基礎年金が支給されず無年金となっていました。また、基礎年金制度は、原則として、20才から60才までの40年間加入することを前提に満額の老齢基礎年金を支給することとされていますが、学生は、任意加入とされていたため20才以上の在学期間中に、国民年金に加入していなかったものについては、卒業後年金制度に加入しても満額の老齢基礎年金が受けられませんでした。

このため、国民年金法が改正され、平成3年4月1日から、20才以上の学生も全て国民年金に当然加入することになりました。

なお、国民年金への加入の手続き、保険料の納付方法及び保険料の免除等の詳細については、学生課厚生係又は、住民票を登録している市区町村の国民年金担当窓口へ直接問い合わせください。

「新歓合宿」のお知らせ

毎年大好評の「新入生歓迎合宿」を、今年も4月10・11日に行うことになりました。

予定内容は、医療の先端を実践されている教授の講演、各クラブの紹介(とっても楽しいですよ!!)、学内めぐり(学内の施設の位置を早く知り、大いに活用しましょう!!)などが、まず学校で行われます。その後、ホテルに行き、先輩方とのグループ交流会(学生生活についての質問を持って行きましょう。先輩方が細かいアドバイスを与え、疑問にお答えします!!)、新入生全員の自己紹介(去年は、体操の床の演技を被露した人、一発芸をした人など、いろいろといましたよ!!)、クラブ勧誘(しつこいですよ!!)、そして、1年生だけで飲み明かすのです!!とはいっても、寝たい人は布団もあります。飲みすぎて、万一のことがあっても、先輩が助けてくれます。大浴場で裸と裸のおつきあい、も楽しいですよ。

去年は約90名の1年生が参加し、約200名の先輩方が訪れてくれました。このおもしろさは、まさに、「百聞は一見に如かず」です。必ず、多くの友達ができ、次の日からの生活がうまくゆくこと間違いなしです。ぜひ参加して、このおもしろさを実際に自分の肌で体験してください。

～上級生共々、心より新入生の参加をお待ちしております。新入生歓迎実行委員会より～

学生食堂・喫茶の価格改定について

学生食堂及び喫茶の価格が平成5年2月1日から、諸物価の高騰、営業経費の上昇等諸般の事情により、食堂平均8.9%、喫茶平均10.6%値上げされました。(学生課)

使用活字の変更について

「かぐらおか」の使用活字が今回より大きくなったのに読者の皆さんは御気付きでしょうか。従来の11級の活字を12級に変え、紙面を見やすくしました。ぜひ74号と比べて見てください。

表紙写真の説明

走査電子顕微鏡 (S-4100)

試料表面ないし内部の像を、広い倍率範囲にわたって、凹凸の微細な情報を三次元的に観察することが出来る装置で、広範囲に利用されている。

課外活動短信

東医体	12/25—12/29	軽井沢
アイスホッケー部	優勝	
MVP・ポイント王	千里直之	4年
VEST6・FW	奥山淳	4年
VEST6・DF	小村景司	4年
VEST6・GK	高橋淳一	4年



教官の異動

※昇任

5.3.1付 生化学第二講座 助教授 鈴木 裕



怒外

田中 剛

アナログ言語論

毎年、新入生は最初のドイツ語の時間が終わった直後、私の前に歩み寄り、少し訝しげにこう尋ねる。

「あのう、辞書はどんなものがいいんですか。」

確かに、新しい外国語との出会いは新しい辞書との出会いでもある。私が、ガイダンスのなかでまったくそのことに言及しないので、必須の条項を忘れていてと彼らは思うのであろう。「辞書を引き潰す」、言葉は悪いが、苟も外国語に挑む学生で、この域に達するほど熱心に学ぶ意気込みが、本当にあるなら、種類などどうでもよいではないかと心中で囁きながら、いつしか私の口は数社のポピュラーな辞書の名を羅列している。

言語は辞書というハンマーでコツコツ打ち砕いて理解できるような鉱石ではない、とこれから2年がかりでじっくり教えようとする私は、いかにも不器

用なドイツ語教師である。「単語の意味が知りたいだけです」と言う学生と、辞書は決して言語使用のマニュアルではない、と言おうとする私との議論は平行線をたどる。困難な受験英語を通過してきた学生に、それではといくつかの質問をする。“He taught me English”と“He taught English to me”との使い分けは?、とか、“I don't like it”と言うが、“It likes me not”とは言わぬほど十分に現代人である皆さんは、この二つの表現の裏にデカルトの“Cogito ergo sum”に匹敵する認識上の大きな相違のあることを考えたことは?、とか、もっと単純に、“doubt”の“b”はなぜ発音しないのか、とか、要するにいか言語の柔構造の理解が大切かということの示唆を与えるのである。「あのう、辞書はどんなものがいいんですか。」の「は」と「が」は一体どちらも能動的な主格の格助詞なのか、という日本語の問題はどうであろうか。以上のことは実はドイツ語と密接に関係がある、などと、アルファベットの“a”の音価について述べる段階から持ち出せば、少なからぬ学生が動揺を示すことになる。

そこで目を輝かせてくれる学生はおらぬものかと思いつつ、また願いつつ赴任5年目を迎えた。

(ドイツ語 助教授)